



元厚生労働省老健局長・兵庫県立大学客員教授の宮島俊彦先生をお迎えし
在宅医療・介護連携推進シンポジウムを開催 (R7.11.15)

これからの暮らしを、高石で自分らしく。

- 高石市は皆さまの「ずっと好きなことしたい」を応援します -



人生100年時代が到来し始めている今、お一人お一人が自分らしく充実した日々を過ごせるように、市では医療・介護・地域ボランティアの方々や社会福祉協議会とともに皆さまを応援できる地域づくりを進めています。

問合せ先 介護保険課 ☎(275) 6319

医師会の皆さまとともに高齢者支援等の意見交換会を実現

市と医師会の間では、これまでに無かった政策推進の関係性を構築しています。昨年12月には「高齢者支援など」をテーマに意見交換を行い、「在宅医療介護連携」「フレイル予防」「人生会議(ACP)」「災害発災時の対応」など、幅広く意見が交わされました。医師会長や市内4病院の医師との会議は近年初めての取り組みで、

市長からは「本日議論した案件についてはギアを上げて取り組みたい」との方針が示されました。



New! 高石市・高石市医師会 高齢者支援等に関する意見交換会を初めて開催 (R7.12.16)

左から、高石加茂病院 泉院長、高石藤井病院 長谷川院長補佐、畑中市長、医師会 矢田会長、(一財)保健医療センター 岩田理事長、浜寺病院 木岡病院長、高石病院 小川院長



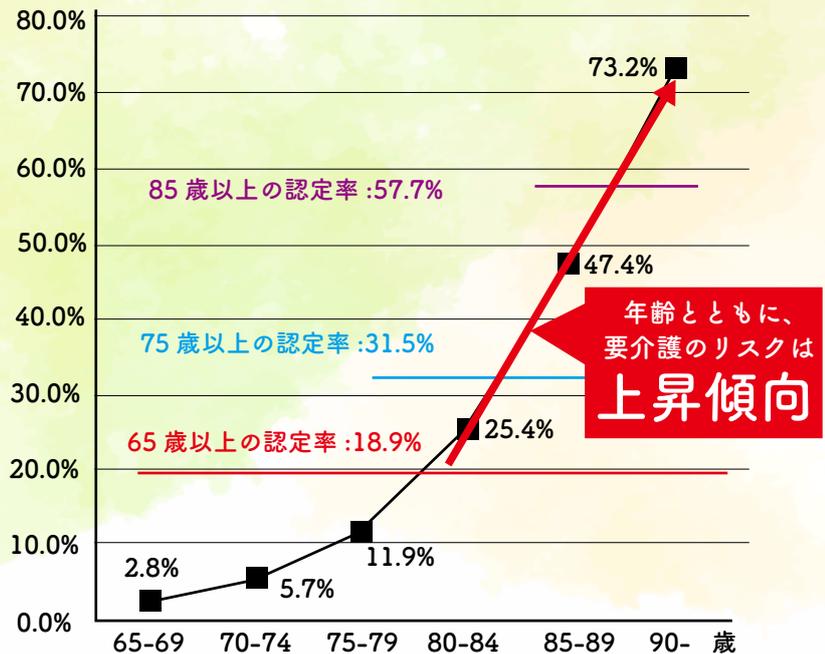
住み慣れた地域で暮らすために「在宅医療・介護連携」

右のグラフをご覧ください。要介護認定率は年齢を重ねるにつれて高くなっていて、85歳以上の認定率は57.7%、2人のうち1人は介護が必要な状態になっています。さらに、85歳以上の人の数は全国的に増えていて、この傾向は今後も続くと予想されています。

これからもっと多くの方々が医療や介護が必要になっていきますが、そうなったとしても、皆さまには、長年住み慣れた自宅や近くの施設で、最期まで安心して暮らしていただきたいと思っています。

そのために、医師会、介護事業所の方々や社会福祉協議会と一緒に、市にとってふさわしい支援体制を考え始めています。今後10年を見据えて今からしっかりと準備を進めていきます。

年齢階級別の要介護認定率



出典：2022年9月末認定者数（介護保険事業状況報告）及び2022年10月1日人口（総務省統計局人口推計）

ずっと好きなことを続けるためのフレイル予防

市では、皆さまが「ずっと好きなこと」を続けていただけるように、心と体の衰え（フレイル）を楽しく予防できる「場」づくりを、校区福祉委員など地域ボランティアの方々と一緒に進めています。今は、コミュニティカフェなどを中心に、心と体の状態チェックや予防に関するトレーニングなどを行っています。これからも、フレイル予防の活動を増やしていきますので、ぜひ参加してみてください。



- コラム -

ご存知ですか？「人生会議（ACP）」

人生会議は、終末期や事故などで急に意思表示ができなくなったときに備えて、ご自身が望む医療や日常的なケアなどについて、前もってご家族や関わりのある方々と話し合い、共有する取り組みです。それがあれば、ご自身の望みが伝わって、ご家族や医療・介護などの専門職が適切な意思決定ができるようになります。ぜひ一度話し合ってみましょう！



東京大学高齢社会総合研究機構の飯島勝矢先生をお迎えし健康フェア～Let's try フレイル予防～を開催（R7.10.26）飯島先生とミサイルマン西代氏による進行のもと、高石加茂病院の三好先生、高石藤井病院の長谷川先生、ネイビーズアフロみながわ氏、畑中市長でパネルディスカッションも行いました。シンポジウムの模様は高石市公式 YouTube で配信中です。

